

2020年度／単年度計画

2020年度取組方針

✂ 基本的な考え方

「リージョナル・ランドマーク・エアポート」の実現に向け、公共施設等運営権制度の下での新たな組織・運営体制及び県・促進協と連携した航空営業体制を確立するとともに、二次交通施策の検討や新規就航受入のための環境整備などに取り組みます。

✂ 旅客数等目標値

	2019年度 (実績)	2020年度 (目標)	2023年度 (5年目)	2038年度 (20年目)
旅客数	73万人	77万人	101万人	135万人
国内線	46万人	50万人	59万人	66万人
国際線	27万人	27万人	41万人	69万人
貨物量	998t	1,130t	1,846t	3,264t



※策定時点では、コロナ禍の影響は考慮していません

✈️ 空港活性化に関する計画

旅客数及び貨物取扱量の増加

- 首都圏アクセスなど新たな二次交通の路線開設
- 新規就航実現のためのボトルネック課題の整理
- 受入環境整備のための先行投資の実施
 - ・チェックインカウンターの再配置及びセミインライン方式への切り替え
 - ・5番ボーディングブリッジ（PBB）の新設
- ケータリングサービス提供のトライアル実施
- 仙台空港や高松空港、下地島空港と連携した航空営業の実施
- 就航促進につながる戦略的なチャーター便の誘致

ビジネスジェット等の利用拡大

- ビジネスジェットの商談会への参加
- ヘリ駐機スポットの整備

旅客ターミナルビル入館者数の増加

- 空の日や富士山の日、ランウェイウォークなどを通じた定期的な集客イベントの実施
- 空港周辺地域をターゲットとした媒体作成・配布

空港利用者の利便性向上

- アクセスバスの強化やダイヤ改善
- 利用者満足度調査による課題の抽出
- インフォメーションボード設置など総合案内所機能の強化
- 駐車場有料化による繁忙期における混雑緩和

地域連携事業

- 県内観光資源と連携した富士山周遊フライト
- 旅行業Ⅱ種取得による空港を拠点とした「静岡着地型」観光商品の企画・販売



開港11周年キャンペーン
マスコット「コジコジ」

✈️ 空港運営に関する計画

安全・安心の確保

- 策定されたA2-BCPに係る対応訓練を実施するなどA2-BCPのさらなる深化
- 仙台・高松の経験・知見の活用、相互交流

運営の効率化

- ITを用いた点検ツール（インフラドクター等）の導入による省人化
- ロボット活用等の実証実験の実施



航空機事故対応訓練の様子（2018年）

✈️ 更新投資計画

- チェックインカウンター他改装
- ボーディングブリッジ新設（5番スポット）
- 到着ロビー改装（サイネージ更新他）
- 航空灯火用受配電設備修繕工事 など

ボーディングブリッジ
設置イメージ
（現在の4番スポット）



※A2-BCPとは大規模な自然災害が発生した際の空港運営の継続及び早期復旧に特化した事業継続計画のこと